

政策創造学ニューズレター

(愛称：テルマエ通信)

梅雨が明けて、連日厳しい暑さが続いていますね。もはや「暑い」を通り越して「熱い」という状況ですが、学内においても論文の中間発表と論文の執筆を控えた学生たちが熱気を帯びています。

そんな論文執筆のための情報収集に欠かせないのが図書館。今回は国会図書館や法政大学図書館、専門図書館など様々な図書館の特色や利用法を紹介してゆきます。こんな図書館があったの？ そんなサービスがあるなんて知らなかったなどなど。発見がある特集となっていますので、皆さんもお気に入りの図書館を見つけてみてください。ニューズレター恒例のゼミ紹介、今回は諏訪ゼミをご紹介します。

今年の夏は、涼しい図書館の中で過ごしてみたいかがでしょうか。

(横井友美加)

図書館特集

今回の図書館特集では、公立図書館、専門図書館、大学図書館をそれぞれ紹介してゆきます。初めて知る、あるいは知っていたけれど利用したことのないサービスがある図書館などありましたら、是非利用してみてください。

公立図書館

国立国会図書館本館

<http://www.ndl.go.jp/>

読みたい文献や資料が、近くの図書館あるいは書店で探しても見つからないという経験をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。そんな時、便利なのが国立国会図書館です。

法律により国内で出版される全書物は国立国会図書館への納本が定められているため、マンガから週刊誌、論文、専門書にいたるまであらゆる書物を閲覧することが可能です(ごくたまに納められていないものもあります)。国立国会図書館はその蔵書量が膨大であるため、東京本館と京都にある関西館で分担保有しています。その他にも、児童向け資料を扱う国際子ども図書館といった支部があり、それぞれ保有している資料が異なるため、訪れる前に目当ての資料がそこにあるか確認しておくとうまくいきます。

国立国会図書館では基本的に閉架所蔵と



国立国会図書館

なっているため、資料を閲覧するには館内設置のOPAC端末から閲覧申請をする必要があります(一度に3冊まで閲覧可能)。また、資料の貸出サービスは行われていないので、資料に書き込みをしたい、手元に残しておきたいという場合は複写サービスを利用しましょう。複写サービスは、館内の端末で作成した申込書に記入して申請する他、インターネットや郵送、海外からも申請が可能です。

複写サービスにはもちろん料金がかかるのですが、コピー10円という感覚で行くと驚くほど高めの設定なので注意が必要です。また、資料の閲覧、複写はどちらも申請から受け取りまで20分ほどかかるため、時間に余裕を持って利用しましょう。

時間に余裕がない、永田町まで行くのが

面倒くさいという方はお近くの図書館への資料請求が可能です。個人への資料貸出は行っていませんが図書館間貸出は行っている、その図書館が国立国会図書館との図書館間貸出制度に加入しているかを確認の上、利用してみたいかがでしょうか。

資料の閲覧に疲れた、申請した資料の待ち時間ももつたないという時は、カフェテリアを利用してみましょう。特に東京本館では「国会井」といういかにも永田町らしい人気メニューがあります。政権が民主党に移つてからは「新・国会井」なる新メニューも登場したそうです。一度ネタに食べてみるのも面白いかもしれません。

国会なんて名前について厳めしい、真面目そうで行き辛い……と思っている方、普通の図書館となら変わらない、むしろ何でも読み放題の素晴らしい空間です（待ち時間が長いのは辛いですが）。是非利用してみてください。

東京都立図書館

<http://www.library.metro.tokyo.jp/index.shtml>

東京には、国立国会図書館の他にも膨大な蔵書を誇る図書館、東京都立図書館があります。広尾にある都立中央図書館は、170万冊を有し、立川にある都立多摩図書館は国内初の雑誌集中サービス、マガジンバンクを開設しています。どちらも国立国会図書館同様、個人への貸出サービスを行

っていませんが、都内の区・市立図書館への図書館間貸出を行っているので、必要な資料を取寄せて閲覧することが可能です。また、複写サービスについては国立国会図書館と異なり、近刊書はコイン式複写機を利用した複写が自分の手でできるので、利用し易いのではないのでしょうか。■

(横井友美加)

専門図書館

専門図書館を利用してみよう。

霞が関にある省庁にはそれぞれ図書館や資料室等があり、一般でも利用可能です。

その中から観光や地域活性に関わる国土交通省図書館、中山間地や森林に関わる農林水産省図書館をご紹介します。

省庁への入館は、各庁舎の入口に警備員がおり、入館票に記入して入館章を受け取り自動改札を通して入館します。

入館票は通常、訪問する部署、担当者氏名を記入する必要がありますが、図書館へ行く場合は、図書館と書けば良く、写真付身分証明証の提示を求められるので、学生証か運転免許証を持参しましょう。

専門図書館の大半は土・日・祝日休館が多く平日昼間しか利用出来ないのに注意です。

国土交通省図書館

<http://www.mlit.go.jp/library/main.htm>

3

国土交通省（旧建設省、運輸省を含む）

発行の資料類のほか、交通、観光、都市計画などの図書、資料が所蔵されています。

ただし、地図関連は少なく地形図に関することは、つくば市にある国土地理院情報サービス館へ当たることをお勧めします。

開館時間—9：30～17：30

休館日—土・日・祝日、年末年始

毎月末日

農林水産省図書館

<http://www.naff.go.jp/j/library/index.html>

農林水産省（旧農林省、林野庁などを含む）発行の資料類、農林水産関連の書籍を所蔵しています。

林野庁は森林基本図を作成しています。森林基本図はこの図書館には所蔵していません。

開館時間—9：30～17：00

休館日—土・日・祝日、年末年始、

月の初日

その他に各種団体にも専門図書館があり、その中から旅と観光、映画、放送の専門図書館をご紹介します。

旅の図書館（財団法人日本交通公社）

JTBの財団部門が運営する図書館で、旅、観光関連の雑誌、書籍、旅行ガイドブ

ックを所蔵しています。

以前は観光研究関連の大学紀要の所蔵は少なかったのですが、数年前から希望資料のリクエストを出していたら観光系学科のある大学紀要はほぼ所蔵されるようになりました。

開館時間—10：00～17：30

7・8月の毎週金曜日は19：30

休館日—土・日・祝日、年末年始

国立近代美術館フィルムセンター図書室

国立の映画収蔵施設があるのをご存じでしょうか。中央区京橋にあるフィルムセンターは図書室があり、映画文献の書籍、雑誌2万8千冊が一部開架、大半開架書庫で所蔵されています。ここは平日に加えて土曜は18時まで開室しています。

調布市立中央図書館映画資料室

調布市には戦前からある角川大映スタジオ（旧大映撮影所）、戦後に出来た日活撮影所があり映画との繋がり深い町で、調布市立中央図書館には映画資料室があります。時事通信社の映画年鑑を始めとして映画関連図書などが基本的に開架書庫で自由に閲覧できるのは便利です。

放送ライブラリー

あのドラマや歌番組などが見たいと思ったら、この横浜にある放送ライブラリーで探してみましょう。ビデオのない時代の作

品は見られませんが、見たかった番組が見られるかもしれません。 ■ (正木聡)

市ヶ谷図書館・山の手コンソーシアム

私たちにとって、市ヶ谷図書館は研究所の中心と言っても過言ではないと思われる。アマゾン等で気になる本や必要な本を購入出来るような時代ではあるものの、やはり、いい図書との出会いは多くの書物に囲まれた環境に身を置き、気になる本を気軽に手に取り、読んでいくことではないでしょうか。

研究を進めて行く上で、他の研究所との差別化を図るためには多くの論文や書物を読まなければならない、図書館を利用する機会が増えます。また、壁にぶつかる時期や周りが見えなくなりつつある場合や授業で学んだことを確認し、復習するといった時こそ市ヶ谷図書館は最も身近で親切なサポーターとなってくれることでしょう。

加えて、必要とする図書や資料類が学内にないときは、各図書館で購入希望の申込ができます。また、他大学図書館などを利用するための紹介状の発行、雑誌論文などの文献複写依頼、図書の相互貸借なども行っています。2000年度からは、「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」がスタートし、法政大学の学生・教職員は、青山学院、学習院、國學院、東洋、明治、明治学院、立教の各大学図書館を特別な手続きなしに利用できるようになりました。

さらに、千代田区民も市ヶ谷図書館を利用でき、市ヶ谷図書館は多くの方々に利用されています。 ■ (井嶋充憲)

静岡市立御幸町図書館

静岡サテライトキャンパスがある「静岡ペガサート」(再開発ビル)には、公共図書館としては珍しくビジネス支援に力を入れている静岡市立御幸町図書館が置かれています。この「御幸町図書館」と併設されている「産学交流センター」を合わせた愛称として、「B・n・e・s・t」と呼ばれており、「B」は、ビジネス(産学交流センター)とブック(御幸町図書館)、両施設を利用してブレイクスルー(Break-through)難しい問題を解決、大きな前進)を目指してほしいという願いが込められています。ネット経由による図書検索、予約もでき、静岡生にとつてはたいへん便利な施設です。 ■ (中野雅也)

プログラム紹介④

公共政策創造群 雇用政策プログラム

諏訪研究室

今回は、雇用政策プログラムのゼミである諏訪研究室のご紹介です。ゼミを率いる諏訪先生は、労働法・雇用政策の分野では日本を代表する研究者であり、経産省・厚労省にも数多くの提言をされています。この日本で唯一といえる雇用政策を専門に

研究する講座に、企業セクター、大学セクター、公務セクター等の各方面の志有る専門家(修士課程19名、博士課程19名)が集い、日々、研鑽しております。

さて、この諏訪研究室をご紹介します。さて、この諏訪研究室というよりは「道場」という表現が適切でしょう。道場主である諏訪先生自ら、木刀ならぬPCを駆使し、秘伝の分析手法を20代の若者顔負けの馬力で、我々ゼミ員に熱く稽古をつけて戴いております。PCの苦手なゼミ生も、大学院修了までには筋金入りの分析の猛者になること請け合いです。

ゼミの研究は、修士1年向け、修士2年以上向け、博士課程向けの階層別の運営を基本としながら、学年を越えた階層間学習である「師範代講座」、外部の識者との他

流試合といふべき研究会も開催されております。

「師範代講座」とはゼミ生の相互学習で、博士課程・上級生による定期的なゼミ内自主勉強会です。これは「自らの力を高めたければ上位の者に挑戦し、自らの力を確かめたければ下位の者を指導せよ。」という道場主の教えによるもので、まさに掛かり稽古です。博士課程の師範代からは高度な研究手法のノウハウを、この春に免許皆伝された修了生からは修論作成体験談を、上級生からは現在進行中のホットなインタビュー手法やロジカルシンキング手法等々を、と道場の学習環境は充実しております。

研究成果の外部発信や、学内外の人脈による研究交流も盛んです。大学院主催シンポジウムの参加だけではなく、小峰ゼミの支援による人口オーナスについての大規模な統計調査から新聞発表まで、更に外部の企業人事有識者を組織化しての「キャリア・インテグレーション研究会」の開催等、ゼミ生の実力を問う他流試合の場も豊富です。

こうした研究室のスタイルに恐れをなす他ゼミの方も居られますが、道場の中では上下関係もなく、懇親の場も充実しております。春・夏休みの合宿では、時間を忘れての議論と飲み会に観光。日々の授業の後でさえ、気が向けばすぐに誕生する「諏訪バー」という懇親会。(研究室には、ワイ



師範代講座風景

ンボトルは勿論、間接照明にムード音楽まで常備されています。」

いま巷では、坂本龍馬ブームですが、龍馬も千葉周作道場の門を叩いて心身を鍛えつつ志をたてました。我が諏訪研究室も龍馬の名言の如く「日本の洗濯」ができるような一騎当千の志士となるべく日々邁進しております。どうぞ今後の活躍にご期待下さい。 ■ (鈴木美伸)

キャンパスLIFE②

編集プロダクションとして起業して約20年、事業所を置く大田区で、私は多くの中製造業の経営者たちと交流を持ちながら過ごしてきました。

また、大田ブランド推進協議会、大田区産業振興基本戦略協議会など、いくつかの地域の産業施策の委員も歴任してきました。その他にも地域活性化を目的としたLLPを中小製造業の仲間たちと作ったり、女性起業家共同出資によるITコンサルタント会社を作ったりなど、地域の中で様々な活動をしてきました。

そのような背景から、「大田区中小製造業が雇用を創出するためにはいかなる政策が必要か」を研究したいと思い、当研究科に入学しました。私を育ててくれた地域や地域の経営者たちへの恩返しですが、自分の研究を通じて少しでもできれば、という思いからです。



2009年11月、「おたかい観光展」にて

久々に触れるアカデミックな世界は刺激に満ちており、真剣に取り組んだ分だけ、すべて自分の血肉となっていく喜びを噛みしめています。とはいえ、決して楽しいことばかりではありません。仕事、家庭生活、地域活動と何足も草鞋を履いているので、時間配分にはいつも四苦八苦しています。加えて当研究科入学が決まってからちょうど一ヶ月後に、静岡大学大学院から客員教授就任依頼を受け、「学ぶ、教える」という立場を突如同時進行しながらやることになりました。

私は長期履修の3年で、最初から研究スケジュールを立ててきましたが、なんとかここまでキャンパスライフを続けてこれたのは、指導教授の諏訪康雄先生の厳しくも温かいご指導をはじめ、ゼミ生同士の

日々の励まし合いがあったからです。諏訪ゼミでは電子掲示板で常に情報共有をしており、学年が違ったり、同じ授業を履修していないゼミ生の様子も日々垣間見ることができます。

そして私が大学院へ行く日は、夫が早く帰宅し、食事当番をしてくれています。このことは私が研究を続ける上で、どれだけ支えになってきたかわかりません。また、今年も息子の大学受験という我が家にとつての一大イベントもありましたが、なんと入学に漕ぎつけることができました。

社会人大学院生は常にならばバランスに配慮しながら、研究を続けていかなければなりません。でも全部一人で背負いこむのは不可能です。そんなとき、ちょっと自分の周りの院生の方たちを見まわしてみたらいかがでしょうか？きっと同じ悩みや喜びを抱えて、相談に乗ってくれる仲間がいるはずです。 ■ (奥山 睦)

新着情報

法政大学院静岡サテライトキャンパス

2010年度特別講座

「魅力的な企業・地域をどう創るか」

【期間】 7月29日(木)―9月19日(土)

【会場】 静岡市産学交流センター

「ペガサート」 6・7階

【募集人数】 50名(随時受付)

【参加費】 10,000円(全7回)

【主催】 法政大学院

静岡サテライトキャンパス

【問い合わせ】 法政大学院

静岡サテライトキャンパス

電話 054-2555-7287

FAX 054-2555-7288

E-mail: shizuoka-sc@ml.hosei.ac.jp

http://www.hosei.ac.jp/gs/shizuoka-sc/

編集後記

首相交代で内閣支持率を一気に回復した民主党政権ですが、結果として今回の参院選は大敗に終わりました。ようやく熱い参院選が終え一段落したかと思えば、間髪入れず梅雨明けが発表され、例年になく早い猛暑の日々が続いております。次号の間発表特集は、猛暑に負けないくらいの熱い内容をお届けしたいと思いますので、次号もどうぞお楽しみ下さい。 ■ (井嶋充憲)

政策創造学ニュースレター第7号

編集・発行

法政大学院政策創造研究科内

政策創造学ニューズレター編集委員会

(浅田眞澄美、井嶋充憲、鈴木美伸、

那須田摩美、堀江慶子、横井友美加)

発行―2010年7月31日